

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立小中一貫校北山校
1 前年度 評価結果の概要	○学校教育目標である「感謝・絆・全力～小中一貫教育と各種交流活動によって自主・自立に向かう児童生徒の育成～」に向けて、教職員は啓発や働きかけを行ったり、児童生徒は学校行事や地域行事に進んで取り組んだりする姿が見られた。 ○学力向上や地域連携に向けて、北山校授業モデルづくりの研修を進めながらタブレットの活用や個別化への対応を行ったり、学校行事と地域行事を計画的に組み込み北山校の魅力や体感できる方策を仕組んだりしていくことが求められている。 ○心の教育について、教職員による生活実態調査、児童生徒会によるいじめ、いのちを考える取組等、細やかな対応や指導、年間を通じての自主的な活動によって、児童生徒の安心感や満足感が高い。教育相談週間等の充実で、相談体制をさらに強化していきたいと考える。 ○健康・体づくりについて、あいさつ運動、早寝・早起き・朝ごはんの習慣、保健便りによる啓発等、継続的に児童生徒に働きかけを行っていた。今後、全学的に、運動やスポーツへの取組を具体化して、体力づくりに励むことが課題である。 ○地域に開かれた学校について、育友会活動を中心に児童生徒や保護者の出席率は、ほぼ100%と非常に高い水準である。しかし、意識面では教職員と保護者では隔りがある。保護者の学校への期待感を把握して、学校運営に活かしていくことが求められていると言える。
2 学校教育目標	○感謝・絆・全力～小中一貫教育と各種交流活動によって自主・自立に向かう児童生徒の育成～
3 本年度の重点目標	(1)感謝…豊かな心「自他の生命尊重」「他人を思いやる心」「自己肯定感」「道徳的心情」「人権感覚」「ボランティア活動」等の向上、育成 (2)絆…絆づくり「人間関係力」「ふるさとへの愛と誇り」「喜び合う学級づくり」「遠隔地交流」「地域連携」等の充実、推進 (3)全力…学力向上「基礎・基本」「生活習慣」「北山校授業モデル」「北山校思考スキル」「家庭学習」「家勉がんばろう週間」等の定着、推進

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全国、県学習状況調査に向けた学力向上対策の充実、学習内容の定着に向けた分かりやすい授業実践	○教職員の学校評価アンケートの「学習課題や学習過程の工夫をした授業づくりをし、主体的に学ぶ姿を目指している。」という項目で、肯定的な回答の割合が85%以上になるようにする。	・校内研究を通して、児童生徒に主体的に学習に取り組ませる指導方法の研究を積み重ねる。また、学力向上対策に係る研修会を継続的に実施して、教職員自身の資質向上に努める。	A	・問題解決的な学習を軸に授業づくりをして、学習に対する主体性や積極性を目指す。学力向上に係る項目で、肯定的な回答の割合が、生徒も保護者も教員も80%以上になるように引き続き小中連携を意識して実践をする。	A	・研究と実践を積み重ねたことで、児童生徒の学力向上に関するアンケート項目は、児童生徒、保護者、職員とも85%以上であった。課題は、児童生徒が自他の意見や考えを交流してどのように深めていくかだと考える。	A	・北山校授業モデルの基本的な考え方を保護者とも共有していくことが大切です。
	○気づき、考え、表現する児童生徒の育成に向けた授業づくり	○深める過程の中の伝え合う場面を中心に自分の考えを述べたり友達のを聞いたりすること、肯定的にとらえた児童生徒の割合を85%以上とする。	・「北山校授業モデル」を基に、「考える」「深める」場面で、主体的、対話的活動を仕組み、児童生徒が自ら学ぶ授業づくりの中で、論理的思考力の高まりを目指す。	B	・アンケート結果から、交流活動を肯定的にとらえる児童生徒は全体の69%であった。今後も「北山校授業モデル」を活用しながら、「考え」「深める」交流活動の工夫を模索していく。	B	・アンケート結果から、交流活動を肯定的にとらえる児童生徒は全体の70%であり、学びの中で交流活動が定着してきたことが分かる。来年度はさらに、児童生徒の思考の深化を意識した授業づくりを目指していく。	B	・富士町の人、事、物を題材として授業に活かしていくと、気づき、考え、表現するにつなげていきたいと思います。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの生命尊重、思いやり、社会性等の項目にて、肯定的にとらえた児童生徒の割合を85%以上とする。	・道徳の授業公開により学校の取り組みを伝えたり、家庭や地域との連携を通して相互理解を図ったりして、学校と地域が一体となって児童生徒を見守る。	B	・「ふれあい道徳」の授業公開、学年や学級便りによる啓発等で、児童生徒への指導や対応は細やかに行うことができた。今後、自らの実体験に置き換えて考えたり行動につなげたりする意識を高めていくような指導を行ってきたい。	A	・各学級の実態を踏まえ、職員間で共通理解を図って指導を行うことができた。その結果、学校評価アンケートの生命尊重、思いやり、社会性等の項目にて、肯定的にとらえた児童生徒の割合は100%であった。	A	・自他の命、他者への思いやり等については、重点的に指導をお願いしたいです。
	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートの児童生徒のいじめに関する項目、教職員の組織的な対応の項目にて、肯定的にとらえた教職員の割合を90%以上とする。	・いじめいのちを考える日として、毎月人権集会を行って啓発を図る。また、いじめアンケートを実施して一人一人の心情に寄り添った指導と日常の細かな観察により未然防止、早期発見、早期対応を行う。	A	・アンケートの結果、肯定的な回答の割合は、児童生徒のいじめに関する項目96.8%、教職員の組織的な対応の項目100%だった。引き続き、教職員全体で早期発見、早期対応を行っていく。	A	・アンケートの結果、肯定的な回答の割合は、児童生徒のいじめに関する項目、職員の組織的な対応の項目ともに100%だった。今後も、職員全体で早期発見、早期対応に努めていく。	A	・早期発見、早期対応のために、学校側がどのような対応をしているのか具体的な方策を周知していただきたいと思います。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎学校評価アンケートの「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「将来の夢や目標をもっている」の項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を85%以上とする。	・児童生徒が、学校行事、体験活動等に見通しをもって取り組む単元を仕組み、自らの生き方、考え方を見据えキャリアパスポートに記して学びを振り返ることを促す。	B	・アンケート結果から「大きくなって…、夢や希望を…」の項目で、肯定的な回答をした児童生徒は79.3%であった。今後、学校行事等に見通しをもたせたり、キャリアパスポートを活用させたりして支援を継続していく。	B	・アンケート結果から「大きくなって…、夢や希望を…」の項目で、肯定的な回答した児童生徒は86.8%であった。年間を通しての継続的な進路指導、教育相談、キャリアパスポートによる振り返り等によって成果が表れてきている	B	・将来の夢に関しては、児童生徒、保護者のアンケートとも、85%以上で推移している。今後も継続的に指導をお願いしたいです。
	○基本的な生活習慣の確立に向けた児童生徒の育成	○学校評価アンケートの挨拶、返事、正しい言葉遣いの項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を85%以上とする。	・毎月、全校に対して生活集会で話をしたり、個別に生活習慣についての振り返りを行ったりして、学校や学級で児童生徒の生活を適切に評価する。	A	・アンケートの結果、挨拶、返事、正しい言葉遣いの項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合は、96.8%だった。引き続き、毎月、生活集会を実施し、適切に評価したりしていく。	A	・アンケートの結果、挨拶、返事、正しい言葉遣いの項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合は、98.4%だった。目標を達成した。今後も、継続的かつ丁寧な指導を取り組んでいきたい。	A	・児童生徒が自ら積極的に挨拶ができるように、引き続き指導をお願いしたいです。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成の検討及び実践	○学校評価アンケートの早寝、早起き、朝ごはん、うがい、手洗いの項目や学校給食に係る項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合を85%以上とする。	・毎日の健康観察の充実、遅刻や欠席の児童生徒への家庭連絡、保健だよりによる啓発、給食の残食率調査による指導等、細やかな指導を継続して行う。	A	・早寝、早起き、朝ごはん、うがい、手洗いの項目や学校給食に係る項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合は85.7%であった。今後も保健便り、校内放送等を活用し学級閉鎖や長期欠席の未然防止に努めていきたい。	A	・アンケートの結果、早寝、早起き、朝ごはん、うがい、手洗いの項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合は88.5%であった。日々の細やかな指導、保健便り、校内放送等、今後も継続した取り組みに努めていきたい。	A	・社会全体で子供の教育について考える必要があると思います。
	○自らの健康的な体づくりの充実を目指す児童生徒の育成	○学校評価アンケートの運動やスポーツ、遊び、部活動の項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を85%以上とする。	・外遊びや日常的な運動を奨励するとともに、中・学部部活動の時間を充実させる。また、体育の準備運動に体づくり運動の内容を取り入れ、体を動かす楽しさや心地よさを知り、体力の向上にも努める。	A	・アンケートの結果、運動やスポーツ、遊び、部活動の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合は、96.8%だった。引き続き、学校行事や体育の授業、休み時間の過ごし方に全職員が積極的に関わっていく。	A	・アンケートの結果、運動やスポーツ、遊び、部活動の項目で肯定的な回答をした児童生徒の割合は、96.7%だった。今後も、学校行事や体育の授業、休み時間等で、体を動かす楽しさや心地よさを伝え、体力の向上に努めていく。	A	・子供たちには外遊びの奨励、食育の大切さを指導するとともに、保護者へのお知らせを積極的に行うなど、今後も対策をお願いします。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の項目で肯定的に回答した教職員の割合を90%以上とする。また、職員1人あたりの年次休暇の習得日数14日以上を目指す。	・週行事の定例化、会議時間の設定等、見通しをもった校務の運営や処理を実施したり、教育反省、校務可視化により、業務精選や均等化に努めていく。	A	・見通しをもった校務の運営をめざし、教務センターの環境整備を行った。時間外在校等時間の上限月45時間は全職員で遵守した。10月中旬時点で年休取得日数は平均10日であった。年休取得が困難な職員に対して環境を整えている。	A	・年間を通して、業務精選や校務の均等化の改善に努めた。今年度の月、年間の時間外在校等時間が45時間以上、360時間以上の職員の割合は1%であった。部活動の休養日の週2日以上の設定は100%で、職員1人当たりの年次休暇の取得日数は平均約11日であった。	A	・スリム化はとても大切ですが、職員会議等で先生方の意見をいやすい雰囲気づくりは大切にしていただきたいです。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に係る児童理解と支援体制の構築	○特別支援教育に係る専門性の向上、支援体制の充実について、肯定的にとらえた教職員の割合を90%以上とする。	・特別支援教育に係る研修会を定期的に実施したり、子ども支援会議等で、情報共有を図ったりして、個に応じた児童生徒の指導にあたる。	A	・ケース会議や校内委員会、外部の専門機関との連携等、組織的な対応を行っていると回答した職員は89.4%、配慮が必要な児童生徒に対して研修に参加したり、実際に関わったりしている職員は100%だった。今後も情報共有をして支援を行っていく。	A	・子ども支援会議、校内委員会を通して、児童生徒の情報共有を図ったり、適切な対応を行ったりした。その結果、特別支援教育の在り方に肯定的な回答をした職員は88%と高い水準であった。専門機関との連携、継続的な支援を今後も推進していきたいと考えている。	A	・学校だけでなく、主任児童委員、市の教育委員会等、関係機関と連携、協力してき子供に対応していくことが欠かせないと思います。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域に開かれた学校	○地域連携活動、育友会活動を通して、ふるさと北山への愛と誇りと持つ児童生徒の育成	○学校評価アンケートの交流学習、地域行事の項目で肯定的に回答した児童生徒の割合を85%以上とする。	・北山校育友会の企画である「サマーキャンプ」「冬の北山まつり」等の開催に向けて、保護者や地域の方と共に教職員、児童生徒も当事者として、実際に運営や役割を担う。	A	・アンケート結果から、保護者、児童生徒、教職員の肯定的な回答はいずれも85%以上であった。今後も、学校行事や体験活動等において学校の説明責任を果たしながら地域との連携、理解の促進を継続していく。	A	・アンケート結果から、地域に開かれた学校の項目で保護者、児童生徒、職員ともに95%以上が肯定的な回答であった。今後も、学校、家庭、地域が一体となって、北山校の良さを内外に積極的に発信していくことを継続していきたい。	A	・学校教育目標を達成するため、今後も更に、学校、保護者、地域の関係を深め取り組んでほしいです。
○小中一貫教育	○小中が連携した取り組みによる9年間を見通した教育課程の編成の充実	○学校評価アンケートの小中一貫教育の良さ、小中一貫教育の継続した指導の項目で肯定的に回答した保護者、教職員の割合を85%以上とする。	・小中一貫教育のねらいやよさを確認できるように、児童生徒、教職員、育友会が一体となって学校行事、体験活動等に取り組む。	A	・アンケートでは、肯定的な回答の割合が、保護者とは81.6%、教職員は100%という結果が得られた。今後、さらに、小中一貫教育の利点、効果について取り組む。そして、保護者との連携を密にし、理解、共有を目指す。	A	・アンケート結果から、保護者、児童生徒、職員とも85%以上が肯定的な回答で、成果指標を上回ることができた。小中一貫校の良さが生かされていると思われる。今後も北山校の魅力や内外に発信していきたい。	A	・児童生徒の人数が減少していくなか、教室配置、学年配置等も柔軟な対応が必要になってくると思います。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	●学力の向上について、全国、県学力・学習状況調査の結果は、小学部は県同水準、中学部は県平均以上であった。小中一貫で北山校授業モデルを活かして、気づき、考え、表現する学習活動の充実の結果と考える。 ●心の教育について、教職員による生活実態調査、児童生徒会によるいじめ、いのちを考える取組等、細やかな対応や指導、年間を通じての自主的な活動によって、児童生徒の安心感や満足感が高い。教育相談週間等の充実で、相談体制をさらに強化していきたいと考える。 ●健康・体力づくりについて、あいさつ運動、早寝・早起き・朝ごはんの習慣、保健便りによる啓発等、継続的に児童生徒に働きかけを行っていた。保護者へのお知らせを積極的に行うなどして啓発活動に努めていくことが課題である。 ●地域に開かれた学校について、育友会活動を中心に児童生徒や保護者の出席率は、ほぼ100%と非常に高い水準である。今後は、児童生徒会が中心となって、地域の行事、町おこしの活動などへの参加体制を整えて、家庭や地域との一体感を図っていきたい。
----------------	--